

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シルビアンスポレク療育館真壁		
○保護者評価実施期間	7年 10月 1日		～ 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 5月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童や保護者に対して丁寧な対応をこころがけている。	支援者側からの虐待防止を常に考えて言葉使い、距離感、寄り添い方を意識することを虐待防止委員会やミーティングでも常に話、実践している。	11月までにこども性暴力防止法の理解と、利用児童や保護者への周知と発信をしていく。
2	運動身体を動かす活動ができるスペースが屋外、室内にもある。雨天でも運動ができる。近隣にも公園が多く施設外活動も行いやすい環境である。運動療育を通して児童の心と体の成長、社会性の向上を目指している。	来所毎に身体を動かす機会を設けています。児童によって身体を動かす活動の好みがそれぞれなので、体操、球技、レク遊びや散歩など利用児童と一緒に考えて、楽しんで参加できるようにしています。7年度は運動遊びの延長で地域の陸上大会やスポーツ大会にも参加し、運動療育の幅が広がりました。またバドミントンを活動にとり入れたことで運動に興味を示し、中学入学時に部活をはいるキッカケになった児童もいました。	身体を上手に使えることで児童に自信を持たせ、そこから児童それぞれが目標を持つことができるような運動療育を継続していきます。また、運動遊びを固定化せず色々な運動を来年度も提供できるよう、児童からの声を聞く機会もつくりま
3	家族に寄り添い、相談に乗れる機会をつくっている。	家族の負担が軽減できるように、要望は応じられるよう柔軟に対応しています。また困り事や相談にも傾聴の姿勢で応じています。7年度は職員にペアトレ研修に一名参加させることができました。家族会も久しぶりに開催し保護者同士で話せる場面を提供できた。	ペアトレ研修に今年度も参加させることと、家族会(保護者会)の回数を増やしたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報や取り組みが周知されていないことがある。	保護者と個別に話し合う時間や、保護者同士の交流が少ない。	取り組みや活動内容を保護者にタブレットなどを有効に活用し発信していく。個別面談の回数を増やす、記述式の書類などで利用者の意見を聞く機会をつくる、保護者会の開催を増やす。
2	職員の専門性の不足。	外部研修が少ない。学びたいと思わせるきっかけが足りていない。	外部研修の機会を作ったり、研修や講演会の案内を職員に伝達。支援に必要な書籍を購入し自由閲覧ができるようにする。研修内容を見直す。
3	全員で話し合う時間が少ない。	時差出勤や勤務形態が違う職員が混在している。	時差出勤や勤務形態は全員一緒にすることは現実的に不可能だが、共有グループラインなどをもっと有効に活用し、職員が連携できるようにする。